

# ESD-J2014 年度 事業報告

<2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日>

## I. 概要

2014 年 11 月、ESD の 10 年の総括のための世界会議が岡山とあいち・なごやで開催され、2015 年以降の ESD 推進の枠組みである「グローバル・アクション・プログラム」を公式に開始することで、ESD はセカンドステージに進むこととなった。ESD-J は、2015 年以降、より強力に ESD を推進していく仕組みをつくることを目指し、以下の 6 本の柱で事業に取り組んだ。

1. ESD に関するユネスコ世界会議と 2015 年以降に向けた提言活動の展開
2. ESD を推進するコーディネーターの社会化推進
3. 地域および学校における ESD 推進
4. 国際ネットワーク推進
5. 防災教育と ESD をつなぐ取り組み促進
6. 普及啓発、情報収集・提供

提言活動では、全国各地の ESD 実践者や推進機関等、多様な主体の参画によって、ESD の 10 年の成果と課題をふまえた「市民による ESD 推進宣言」と「地域と市民社会からの ESD 宣言」を作りあげ、世界会議を機に、その実現に向けた様々な働きかけを行った。その結果もあり、今後も国として ESD を支援していくための仕組みとして、「ESD 活動支援センター（仮称）」等の実現に向けた議論がはじまりつつある。また、文部科学省からの中央教育審議会への諮問で ESD が強調されたこと、全国の都道府県知事・教育委員会に対し ESD 推進への協力依頼が行われたことなども、市民からの提案の成果と言えるだろう。

ESD コーディネーターの社会化プロジェクトでは、地域の多様なコーディネーターが ESD の視点を持ち、地域の主体をつなげ、プロジェクトを起こしていけるような力を育む「ESD コーディネーター研修」の構成要素を整理、また映像教材を作成して、今後の研修事業展開に向けた基盤を整えることができた。

国際的には、10 月に岡山で開催された「ESD 推進のための公民館・CLC 世界会議」と連動し、約 70 名の内外の参加者を得て、「ESD におけるアジアの NGO ネットワーク（ANNE）」の立ち上げ式典を開催するとともに、トヨタ環境活動助成プログラム「生物多様性を踏まえたアジアの持続可能な農山漁村社会の形成」プロジェクトの一環として、国際ワークショップを開催した。

そして、世界会議に向けた様々な政府の事業にも協力、世界会議終了直後の 11 月 13 日には政府主催の「フォローアップ会合」の企画運営を受託し、ESD に取り組んできたさまざまな主体 300 名が一堂に会し、情報を共有し、ESD のこれからを語り合う場を形にすることができた。

ESD-J 設立以来、ずっと追い求めてきた「多様な主体の連携・協働による ESD」の実践と推進が、10 年を経て各地で形になろうとしている。2014 年、ESD-J はそのポジティブなエネルギーを共有し、今後につなげていくために、各地のさまざまな主体と連携して活動を展開してきた。その成果とつながりを、ESD のセカンドステージに生かして行きたい。

## II 事業活動

### 1. ESD に関するユネスコ世界会議と 2015 年以降に向けた提言活動の展開

---

#### 【成果目標】

- ・全国各地で ESD に取り組んできたさまざまな主体の成果と提言を盛り込んだ「地域と市民社会によるジャパンレポート」と「提言」を作成し、世界会議および関連イベント等を通して、広く社会にアピールすることで、2015 年以降の ESD 推進の指針や仕組みに、地域と市民社会からの提案が反映されている。
- ・世界会議およびその関連イベントにおいて、これまで ESD に取り組んできた多様な主体が参加し対話できる場を形成することで、2015 年以降も ESD が重要なキーワードとして維持・推進されていく機運が生まれている。
- ・2015 年以降の ESD 推進の仕組みとなる、官民協働の「ESD 全国センター（仮称）」への賛同者・機関による準備が始まっている。
- ・2015 年以降の ESD-J の組織体制の見通しが立ち、移行に向けた準備が進んでいる。

#### 【事業内容】

#### 1) 「市民による ESD 推進宣言」と「地域と市民社会による ESD 提言」の作成

- ・3 月～7 月、全国各地で ESD に取り組んできた地域に働きかけ、「ESD 地域ミーティング」をさまざまな形で連携開催（9 ヶ所）し、各地での 10 年の成果と課題、今後の展開に向けた提言等を作成した。
- ・6 月 22 日、地域ミーティング開催者や ESD 推進団体、ESD-J 会員等の参加を得、「地域と市民社会による ESD 提言フォーラム」の開催等を通して市民提言の核を作成した。その後、ワーキングチームにより、「地域と市民社会からの宣言・提案」としてとりまとめ、提言パンフレット（日・英）、ポスター（日・英）を作成した。
- ・企業の ESD への参加意識を高めるべく、4 月から「ESD と企業の集い」を開催、3 回の会合に 21 社・団体が参加し、有志によって企業セクターにける ESD の在り方や行動指針をとりまとめた「企業による ESD 宣言」が作成された。
- ・一連の取り組みと成果をとりまとめたレポートを、「ESD レポート」の特集号として作成。ESD 関係者約 800 件に送付しその周知に努めた。

#### 【成果】

- ・議論の結果、13 の提言を作成した。宣言および提言は、web において賛同者を募集。2015 年 3 月末日現在、21 団体・57 個人の賛同を得ている。
- ・実践者から国の政策に提案を出す、実践者から全国の様々な主体に行動を呼びかける、という行動を通して、ESD 推進の環境をつくることも市民が主体である、という認識を、市民サイド、行政サイドの双方に広げることができた。
- ・「企業による ESD 宣言」には 15 社・団体の賛同を得た。今後、企業セクターに ESD を普及していくためのツールとして、行動指針を示せたことは大きい。
- ・経団連自然保護協議会、日本商工会議所などを含む経済界において、ESD の認識を高めることができ、今後の連携に基礎をつくることができた。

#### 2) 「地球市民村事業」の共催

- ・8 月 20 日～22 日、ESD 世界会議のプレイベントとして、ESD の 10 年世界の祭典推進フォーラム、文部科学省、環境省、国連大学、GEOC 等との共催による「地球市民村事業」（ESD 実践モデル全国会議、ESD の 10 年・地球市民会議）を開催し、各地の ESD 実践の共有と、2015 年以降の ESD 推進の仕組みについて議論し、提言をとりまとめた。

#### 〔成果〕

- ・全国各地から ESD 実践者が集い、交流を深めることができた。
- ・作成したアピール文書「ESD の 10 年・地球市民会議」からの提言」は朝日新聞の広告特集として全面を使って掲載された。

### 3) 「ESD に関するユネスコ世界会議」への参加、「フォローアップ会合」の企画運営

- ・11 月 11 日、公式サイドイベントを開催し、ヨーク大学教授のチャールズ・ホプキンス氏、インド環境教育センター (CEE) のサンスクリティ・メノン氏をコメンテーターに迎え、日本の市民イニシアティブ・マルチステークホルダーによる ESD 推進の取り組みとその成果、2015 年に向けた提言等をアピールした。
- ・レセプションと展示ホールでポスター展示を行った。
- ・11 月 12 日、併催イベントを開催し、ESD 市民提言を紹介。その後、関心のあるテーマ別にグループを組み、提言への疑問や期待、自分の活動との関わりなどを話し合った。
- ・11 月 13 日、文部科学省主催、環境省・外務省共催のフォローアップ会合の企画運営を担うとともに、参加者としても貢献、報告書を主な関係者に配布するとともに、文部科学省のウェブサイトにも公開した。

#### 〔成果〕

- ・世界会議の公式サイドイベントで、日本の ESD 推進における市民イニシアティブとマルチステークホルダー・プロセスを海外からの参加者にアピールすることができた。ホプキンス教授からは「このように市民社会と政府をリンクさせる取り組みは世界に類を見ない、敬意を表する」との評価をいただいた。
- ・フォローアップ会合には ESD に取り組んでいるさまざまな主体 300 名が参加、世界会議の成果を共有し、今後の ESD 推進に必要な行動や政策をリストアップすることができた。

### 4) 提言実現に向けた働きかけ

- ・「2015 年以降の ESD 推進の仕組み」の実現に向け、環境省の懇談会への委員参加、関係省庁との対話、国会議員 (ESD 推進議員連盟) への働きかけを展開した。

#### 〔成果〕

- ・提言内容の核となる「ESD ナショナルセンター」設立に関する提案は、1 年かけて政府及び国会議員等に働きかけてきた結果、環境省にて 2015 年度予算として準備のための経費が計上された。現在、地域の ESD 活動を支援するための仕組み (センター) を設立する方向で、環境省、文部科学省、民間団体が検討・調整している。

### 5) 2015 年以降の ESD-J の在り方の検討と移行準備

- ・2015 年以降の ESD-J を、政策提言を核とした組織へと移行していく方向で、定款変更、事業計画、体制、予算などを検討した。

#### 〔成果〕

- ・多くの不確定要素があり、2015 年度総会に向けた提案作成は、年度を超えて検討を継続することとなった。

#### 【評価】

成果目標に挙げた「2015 年以降の ESD 推進活動の指針や仕組みに市民社会からの提案が反映されている」については「地域と市民社会からの宣言・ESD 提言」をまとめ、パンフレット(日・英)、ポスター・web で実践現場の市民に賛同の輪を広げる一連の事業活動により、目標の約 7 割の達成に至ったかと評価できる。残りの 3 割は、この 13 の提言を、ESD 実践者其々が、それぞれの場所で実現していくことを期待している。この提言の集約、まとめに関わったワーキンググループの皆さまのご尽力に敬意を表する。

「企業による ESD 宣言」の作成・公表プロセスに経済界に普及する上で影響力を持つ経団連自然保護協議会、日本商工会議所などの支援連携を得、ESD の認識を高めることができたこと、また、ESD 議員連盟が新たに設立され政策的支援に力を得たこと等も踏まえ、今後更に、マルチステークホルダーとの連携を進めていくための基盤が出来た事は評価できる。

世界会議・関連イベントとして共催した「地球市民村事業」において、“「ESD の 10 年・地球市民会議」からの提言”を公表し、地球市民会議としての 7 年間の集大成として賛辞を得た事は関係者一同に深謝したい。また、世界会議の公式サイドイベント「日本の ESD 推進における市民イニシアティブとマルチステークホルダープロセス」は、参加者数が少なく、外部へのアピールに必ずしも大きな効果があったとは云えず残念であったが、外部専門家からの高い評価を受け、ESD-J としては大いなる自信につながった。

世界会議直後のフォローアップ会合はマルチステークホルダーが集結し今後の ESD 推進の展望を語る場となりそれぞれがセカンドステージへの足掛かりを得た事は評価できる。尽力下さった、関係各位に深謝したい。

2015 年以降の ESD 推進の仕組みとして提案してきた官民協働の「ESD 全国センター（仮称）」は、政府において地域の ESD 普及・活性化の支援のためのセンター（機関）（仮）としてその目的・機能・運用の検討・準備が始まっている。

ESD-J としては、支援センター構想の動きを見極めつつ、ESD-J の役割（市民社会の ESD 推進の拠点としてのあり方）、機能、組織体制の大まかな見通しを立て、組織移行に向けた準備をすすめており、2015 年以降の ESD 推進の新たな役割を担う飛躍が出来るものと期待を集めている。（重 政子）

## 2. ESD を推進するコーディネーターの社会化推進

### 【成果目標】

- ・多様な分野のコーディネーターが ESD の視点やスキルを身につける ESD コーディネーター研修のためのカリキュラムと映像教材が 2015 年以降も提供可能な状態になっている
- ・多様な分野のコーディネーターが学びあう場、ESD コーディネーターのネットワークが広がっている。

### 【事業内容】

#### 1) ESD コーディネーター研修の事業化準備

- ・これまでカリキュラム開発に携わった講師が集まり、ESD コーディネーター研修カリキュラムのブラッシュアップを行い、「ESD コーディネーター研修に必要な要素」を取りまとめた。
- ・2015 年 1 月 19-21 日、開発したカリキュラムのエッセンスを体験し、参加者が自分の地域における ESD コーディネーター研修の計画をつくることを目的とした研修を企画、実施した。
- ・2015 年 1 月の体験プログラム終了後、ESD コーディネーター育成にかかわった主催者、講師等による本プロジェクトの評価と、事業化に向けた会議を開催した。

### 【成果】

- ・ESD コーディネーター研修を企画・実施する際の核となる講師 12 名が、研修が取り組む要素の全体像、多様な実施の形態、具体的なノウハウ、互いの得意分野などを共有することができたことで、今後の展開への基盤をつくることができた

- ・3年目の「ESD コーディネーター研修の企画者のための研修」や岡山で開催された「ESD 推進のための公民館/CLC 国際会議」において、15 件程度の研修実施候補を確保することができた

## 2) 映像教材の制作

- ・「SD! ESD! DESD!」「もう少し詳しく ESD」シリーズ全 13 本を制作、web 上で無償公開した。

### 〔成果〕

- ・これまでの教材と合わせて、6 テーマ 29 本の映像教材が完成、ウェブサイトおよび YouTube にて無償公開している。

## 3) ESD コーディネータープロジェクトの情報発信

- ・「ESD コーディネーター研修が扱う要素」を整理し、これまでのモデル実施を「研修デザインの参考」として、事業展開時の説明資料を兼ねた「ESD コーディネータープロジェクト 2012-1014 活動報告書」を制作・配布した。
- ・そのダイジェストのパンフレットを制作・配布した。
- ・ニュースレター「未来へつなぐ」の発行。
- ・ウェブサイト「未来へつなぐ」の完成。（ただし、ESD-J ウェブサイトは不法アクセスによる被害で現在テンポラリーなものとなっており、早急に復旧する必要がある）
- ・10 月 9-11 日、岡山で開催された「ESD 推進のための公民館・CLC 国際会議」にて、ESD におけるコーディネーターの重要性をアピール。また、そこに参加した社会教育関係者に ESD コーディネーター研修の開催を働きかけ、関心者リストを作成した。

### 〔成果〕

- ・報告書、パンフレット、ウェブサイトのすべてが、2015 年以降のコーディネーター研修のツールであり、教材となっている。

## 【評価】

ESD を推進するコーディネーターの社会化を進める本事業は、成果目標である「ESD コーディネーター研修のためのカリキュラムと映像教材が 2015 年以降も提供可能な状態になっている」を達成することができた。本事業の関係者による「ESD コーディネーター研修に必要な要素」の取りまとめや映像教材の充実はもとより、とりわけ開発したカリキュラムのエッセンスに基づいて組み立てた研修を実際に実施できたことは、本事業の成果物の実践的なブラッシュアップに大変寄与した。ご協力くださった広島市佐伯区湯来町の方々に心から感謝したい。

本事業では、その成果物を活動報告書、ダイジェスト版パンフレット、ニュースレター、ウェブサイト等の形で発信してきたが、広く世間に知られるようになっていっているとは言えず、まずはその存在を周知していくための広報活動にいつそう力を入れていく必要がある。また、本事業のもう一つの成果目標である「多様な分野のコーディネーターが学びあう場、ESD コーディネーターのネットワークが広がっている」については、まだその形成途上であると言わざるをえず、開発したカリキュラムを活用した研修が各地でおこなわれ、その参加者のネットワークが広がっていくよう、関係する個人・団体へ働きかけていくことが今後重要である。（壽賀一仁）

## 3. 地域および学校における ESD 推進

### 【成果目標】

- ・多様な主体の連携による ESD に取り組む地域の成果が明文化されている。
- ・全国各地に「学校と地域が連携した ESD」が展開され、学校と地域の連携による ESD 実践

事例の「見える化」が進んでいる。

#### 【事業内容】

##### 1) 地域ミーティングの開催[1-1)の1部]

- ・全国各地で ESD に取り組んできた地域に働きかけ、「ESD 地域ミーティング」を連携開催し、各地での 10 年の成果と課題、今後の展開に向けた提言等を形成した。

##### 【成果】

- ・岩手、埼玉、北陸、多摩・稲城、四国、九州、茨城、東海、宮城の 9 地域で、ESD-J との連携開催することができた。活動の概要、10 年の成果、今後に向けた提言は、6 月の提言フォーラムに持ち寄り、宣言や提言につなげることができた。また、各地の内容は ESD レポートに掲載した。

##### 2) 政府の ESD 施策と連動した、学校と地域の連携による ESD の促進

- ・環境省人材育成事業で選考された 19 件の ESD カリキュラムを一般化する業務を地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）から受託した。

##### 【成果】

- ・作成したカリキュラムは GEOC のウェブサイト公開され、その後、全国の EPO 等によって 47 都道府県でモデル実施された。地域での実施においては、多くの会員、理事がこれに参画した。

#### 【評価】

成果目標としていた「多様な主体の連携による ESD に取り組む地域の成果の明文化」については、9 地域での地域ミーティングと提言フォーラムにより、「市民による ESD 推進宣言」や「地域と市民社会による ESD 提言」に活かされたり、各地の内容が ESD レポートに掲載されるなど、成果の活用、明文化ができたことは高く評価できる。しかし、「ESD の 10 年」の最終年ということ考えると、もっと多くの地域で地域ミーティングを開催したり、もっと多くの団体や個人の声を集め反映させたかったが、その点ではやりきれなかった感が残ったように思われる。2015 年からの国際的な GAP（グローバルアクションプログラム）をインセンティブにして、NGO・市民ネットワークらしいより多くの市民の声を集約できるようにモチベーションを高めていきたい。

また、全国各地における「学校と地域が連携した ESD」の展開ならびに学校と地域の連携による ESD 実践事例の「見える化」については、環境省人材育成事業における 47 都道府県でのモデル事業に、ESD-J の会員や理事が多く参画して、実践事例の「見える化」に大きく貢献したことは評価できる。ただ、地域および学校における ESD の取り組みは、この 10 年間で広がってはきたが、全国的にみて、まだまだ十分浸透したとは言い難い状況にある。この 10 年間で ESD が浸透した地域や学校からさらに ESD が広がっていくように、全国的な連携、ネットワークによる拡充・促進ができる仕組みを GAP に合わせて構築し、地域と学校における ESD 推進が今後もさらに広がっていくようにしていきたい。（池田満之）

#### 4. 国際ネットワーク推進

##### 【成果目標】

- ・NGO によるアジア ESD ネットワーク（ANNE）が設立されるとともに、アジア地域の ESD 関連の活動団体に認知が広がっている。
- ・アジアの農村地域の ESD 推進に向けた人材育成のモジュール案が、ANNE メンバーに共有され、その改善に向けた取り組みが進められる。

## 【事業内容】

### 1) アジアの農村地域の ESD 推進となる人材育成カリキュラムのモジュール作成

- ・20104～2015 年トヨタ環境活動助成プログラム「生物多様性を踏まえたアジアの持続可能な農山漁村社会の形成」プロジェクトの一環として、5月6日～15日にかけて ESD-J は CEE 関係者とともに現地調査を行い、その結果を踏まえて CEE とトレーニング・モジュールの作成方針等について検討した。
- ・6月20日には、ESD-J 会議室にてインド出張報告会を開催し、プロジェクトに対する様々な関係者からの意見を聴取し、モジュール案への反映を図った。

#### 【成果】

- ・現地訪問調査を踏まえ、インドの GRAM NIDHI プロジェクトをベースにした農村地域の人材育成カリキュラムのモジュール案を CEE と協働して作成した。

### 2) ESD に関するアジア NGO ネットワーク (ANNE) 立ち上げ式典と「生物多様性を踏まえたアジアの持続可能な農山漁村社会の形成」国際ワークショップの開催

- ・10月8日岡山にて、ANNE の立ち上げ式典を開催した。
- ・同日、「生物多様性を踏まえたアジアの持続可能な農山漁村社会の形成」国際ワークショップを岡山商科大学と共催で開催し、日本の類似事例を発表するとともに、モジュール案の周知を図った。さらに、フィリピン、インドネシア、インド、韓国の専門家を交えたパネル討議を行った。

#### 【成果】

- ・国際ワークショップでは、午前中に各国専門家によるトレーニング・モジュール案改善に向けた集中的な討議を行うとともに、午後には公開ワークショップを開催し、約70名の内外の参加者を得た。
- ・ANNE メンバーである日本、インド、フィリピンの専門家が ESD 公民館・CLC 国際会議のセッションでモデレーター等を務めたほか、特定の役割を持たない者も討議時の発言や宣言作りへの参画を通じて ESD 公民館・CLC 国際会議に貢献した。
- ・これらの活動を通じて ESD 公民館・CLC 国際会議の参加者に ANNE の活動が幅広く周知されるとともに、両者の活動の類似性も指摘された。引き続き ANNE と ESD 公民館・CLC 国際会議とが連携協力していくことが期待される。

### 3) ESD に関連する国際的動向の把握と国内への発信

- ・ESD の 10 年 (DESD) の最終年に当たることから、ESD に関するユネスコ世界会議やポスト DESD に関する情報、ポスト 2015 に関する情報等を適時に内外の関係者に向けて発信した。

## 【評価】

ESD-J が実施する国際プロジェクトとしては、トヨタ環境活動助成プログラムの初年次の活動が予定通り進行し、「持続可能な社会づくりに向けたトレーニング・モジュール」案が作成されるとともに、インド、インドネシア、フィリピン、韓国等の専門家と意見交換が進められたことは高く評価できる。平成 27 年度には、トヨタ環境活動助成プログラムの最終年として明確な成果を挙げる事が求められる。さらに、平成 28 年度以降の ANNE の新たなプロジェクトを立ち上げることが期待される。

また、ESD-J の設立当初からのミッションとして ESD の 10 年の期間をかけて進めてきたアジアの NGO との ESD ネットワークがようやく正式に発足したことは、ESD の 10 年の末尾を飾る大きな成果であった。

ESD の 10 年最終年にあたることから、ESD に関するユネスコ世界会議、それに先立つ一連のステークホルダー会合等、国際分野でも様々な活動が行われ、グローバル・アクション・プログラムに関するコミットメント募集や世界会議等に関連する様々なイベント

企画なども行われた。ESD-Jとしては、それらの情報を幅広く発信することに努めたが、主催者からの情報伝達の不備等もあり、必ずしも十分な周知が図れなかった面がある。なお、ESD-Jとして、世界会議に幅広いステークホルダーが参加できるよう強く要望したが、実現しなかったことは遺憾であった。（鈴木克徳）

## 5. 震災復興とESDをつなぐ

### 【成果目標】

- ・復興支援や被災地との交流から生まれる学びや、被災経験をふまえた防災教育をESDの視点からとらえなおす動きと連携し、防災教育・気候変動教育を含めたESDの「見える化」が進んでいる。

### 【事業内容】

#### 1) 「防災／気候変動とESD」分科会のコーディネート

- ・地球市民村事業の中の「ESD実践モデル全国会議」において、「防災／気候変動とESD」に関する分科会をコーディネートした。

#### 【成果】

- ・防災と気候変動におけるESDの取り組みを5件共有し、その手法等についての議論を深めた。それぞれの事例は、電子書籍「ESDジャパンモデル」に掲載され、ESD世界会議の参加者には英語版が配布された。

#### 2) 国連防災会議へのアプローチ

- ・2015年3月15日と19日、一般社団法人地域連携プラットフォーム、ESD学校教育研究会、岩手大学研究室等と連携し、国連防災世界会議の関連事業のひとつとして「ESD・教育と防災・復興（仙台・盛岡）」を開催。防災教育におけるESDの視点の重要性や、有効な防災教育の在り方などをアピールした。

#### 【成果】

- ・国連世界防災会議に日本のNGOのネットワーク「2015防災世界会議日本CSOネットワーク（JCC2015）」を通じて防災や防災教育にESDの重要性をアピールするとともに、「ESD・教育と防災・復興（仙台・盛岡）」で復興支援、被災経験をふまえたESDと復興の論議ができた。

### 【評価】

「ESD」の中で、地球市民村事業の「ESD実践モデル全国会議」やESD関連のフォーラム・イベントにおいて、防災における気候変動とESDなどのテーマを展開し、防災教育・気候変動教育を含めたESDの「見える化」がはかられた。しかしながら、この分野にはESDの価値・教育手法の理解がまだ広く行き渡っていないため、まちづくり、地域活性の根幹に活かせるというところまで至っていないところもあり、今後更に防災・気候変動とESDの日常化に向けてあらゆる分野が協働していくための方策が課題として残っている。

「防災」の分野では、2015防災世界会議日本CSOネットワークと協力して、国連世界防災会議や市民世界防災会議でESDはある程度理解された。また、「ESD・教育と防災・復興（仙台・盛岡）」などのプログラムで復興支援や被災地との交流から生まれる学びや、被災経験をふまえた防災教育をESDとしていくことは共有できた。しかし、復興から生まれる学びや被災経験をふまえた防災ESDを、今後どのように構築していくかという課題が残った。（長岡素彦）



## 6. 普及啓発、情報収集・提供

---

### 【成果目標】

- ・2015年以降のESD推進の仕組みづくりに向けたESD-Jの取り組みや、各地のESD実践の広がりをきめ細かく発信していくことで、ESDをともに進める仲間が大きく広がっている。
- ・ESD推進機関との連携により、ESD関連情報がより入手しやすい仕組みが生まれている。
- ・2003年からのESD-Jの取り組みに関するドキュメントが整理され、「ESD-J12年レポート」が発行できる準備が整っている。

### 【事業内容】

#### 1) ESDおよびESDの10年に関するさまざまな動きの情報発信

- ・世界会議開催に向けた動きに関して、ウェブサイト及びメーリングリストにおけるタイムリーな情報発信を行った。また、メルマガおよびフェイスブック等との連動で、会員ネットワーク外への情報発信にも努めた。
- ・「ESDレポート」34号では、ユネスコ世界会議に向けたさまざまなステークホルダーの動きを、35号では32ページの拡大版でESDの10年総括年の動きをまとめ、ESD関係者約800件に送付しその周知に努めた。

#### 【成果】

- ・政府やユネスコからの情報のみならず、市民社会の関係者の取り組みなどもあわせて多くの方々に発信することができた。（現在、ESD-Jのウェブサイトが不審者による侵入が認められたことで閉鎖せざるを得ず、正確なアクセス状況などを把握できていない）

#### 2) ESD普及のための研修・講師

- ・ESDの10年最終年は、さまざまな世界会議関連事業の検討や、表彰の審査のための委員会が開催され、ESD-Jも多くの委員を担った。また、ESD研修における講師のほか、世界会議や世界会議後の報告会等で、市民サイドからESDの10年の成果と課題を報告した。（審査委員7件、委員会5件、講師派遣4件、講演8件、寄稿5件）

#### 【成果】

- ・ESD世界会議の後、各地で開催された世界会議の報告会への参加やニュースレターへの寄稿を通して、国や公式行事の動きだけでなく、市民独自のイニシアティブでの動きを紹介できた。

#### 3) 環境省のESD広報事業

- ・環境省の下記ESD広報事業に協力し、一般市民や親子を対象としたESDプログラムを実施した。また、高校生を中心としたユースのESD支援にも貢献した。

4月29日	ESDフォトコミュニケーションプロジェクト展示@新宿御苑・みどりフェスタ
6月7～8日	ESDフォトコミュニケーションプロジェクト展示@エコライフフェア
8月20～22日	ESDフォトコミュニケーションプロジェクト展示@国連大学・地球市民村イベント
9月18日	ESDフォトコミュニケーションプロジェクトワークショップ@六本木IMA
11月2日	ESD全国子どもフォトコミュニケーションプロジェクト全国大会@国連大学
11月8～12日	ESDフォトコミュニケーションプロジェクト展示及びアワード表彰式@名古屋市オアシス21
3月25日	ESDユース全国大会@文化放送メディアプラスホール

## 【成果】

- ・環境省は、2015 年度に「国連 ESD の 10 年」の最終年であることと、11 月のユネスコ世界会議に向けた国民の理解を高めることを目的に、これまで ESD に関心を持たない層に対しても ESD の訴求をはかる手立てとして「ESD フォトコミュニケーションプロジェクト」と称して、写真を使った展示と参加型のイベント、小中学生、高校生、一般に向けたそれぞれのプロジェクトを推進した。

ESD-J ではこれら一連の実施に際して、事業受託者と連携して ESD の知見をプロジェクトに反映させる役割を担ったほか、展示やイベントの運営に携わった。

写真という誰もが取り組めるツールを使い、プロの写真家から子どもたちの活動まで幅広い層を巻き込んでの展開は、これまで ESD に関わりのなかった人々に ESD に触れる機会をつくれたととらえている。環境省事業への参画と協力であるが、ESD-J としてその成果に寄与できた。

## 4) ESD-J12 年レポートの準備

- ・着手に至らなかったが、2015 年度「12 年間の活動の評価と、成果と課題をセカンドステージにつなげるプロジェクト」に関して、助成金を得ることができた。

## 【評価】

10 年最終年で大型化した業務ボリュームと限られた事務局リソースのなか、啓発をテーマにした環境省事業等にも関与できたことは評価に値する。また、レポートや提言関連のドキュメント発行にさいしては、適切なタイミングでの進行ができたことで、世界会議やフォローアップ会合において ESD 広報周知活動のツールとして機能させることができた。

いっぽう、10 年以降の活動にも関連する情報の整理や、よりアクセスしやすいウェブ環境づくりについての進捗は当該年度の業務ボリューム、予算獲得との関連もあり、はかばかしい進捗を得られたとはいえない。今後、組織移行と歩調をあわせて速やかな企画作業と実作業が求められるところである。

## III. 会議等

### <総会>

通常総会 6 月 22 日 (日) 日能研西日暮里ビル 会議室

### <理事会>

第 1 回理事会 6 月 1 日 (日) 日能研西日暮里ビル 会議室

第 2 回理事会 2 月 15 日 (日) 立教大学 会議室

### <理事懇談会>

第 1 回理事懇談会 6 月 1 日 (日) 日能研西日暮里ビル 会議室

第 2 回理事懇談会 2 月 8 日 (日) 日能研西日暮里ビル ESD-J 事務室

第 3 回理事懇談会 2 月 15 日 (日) 立教大学 会議室

## IV. 会員、理事、事務局等

<会員> ※( )内は2014年3月末の数

団体正会員 72 (81) 団体準会員 20 (19)  
個人正会員 103 (102) 個人準会員 142 (157)  
賛助会員 11 (10) 特別賛助会員 1 (1) 連携交流団体 5 (5)

<役員等>

代表理事 阿部治、重政子  
副代表理事 池田満之  
理事 池田誠、大島順子、小金澤孝昭、新海洋子、壽賀一仁、柴尾智子、  
杵本育生、鈴木克徳、関正雄、長岡素彦、名執芳博、竹内よし子、  
三隅佳子、村上千里、森良、森高一、吉澤卓  
監事 浅見哲、吉岡睦子  
顧問 池田香代子、岡島成行、廣野良吉、CWニコル

\*役割

ESDに関するユネスコ世界会議と 2015年以降に向けた提言活動の展開：

主な担当理事：阿部治、重政子、関正雄

ESDを推進するコーディネーターの社会化推進

主な担当理事：壽賀一仁、森良

地域および学校における ESD 推進

主な担当理事：池田満之、森良

国際ネットワーク推進

主な担当理事：鈴木克徳、名執芳博

震災復興・地域再生支援

主な担当理事：小金澤孝昭、長岡素彦

普及啓発・情報収集・提供

主な担当理事：吉澤卓、長岡素彦

地域担当理事： 【北海道】池田誠

【東北】小金澤孝昭

【関東】森良

【北陸】鈴木克徳

【東海】新海洋子

【近畿】杵本育生

【中国】池田満之

【四国】竹内よし子

【九州】三隅佳子

【沖縄】大島順子

組織運営理事 阿部治、重政子、池田満之、鈴木克徳、村上千里

<事務局>

事務局長（常勤）・・・村上千里

スタッフ（非常勤）・・・飯島邦子、伊藤通子、笹川貴吏子、中川哲雄、宮崎裕子

契約スタッフ（プロジェクトベース）・・・大塚明、後藤尚味、野口扶美子、森高一